

## はじめに

「淡河川・山田川疏水」が築かれた地域は、周りを海や河川に囲まれた“いなみ野”台地です。万葉集では「いなみ(伊奈美、印南、稲日、稲見、不欲見)野」と詠まれ、古くから人々が生活していました。

明治に入り、「開国」、「廃藩置県」、「地租改正」と日本が近代化に向けて大きく変化する波は、この地域の人々の生活を大きく揺さぶることになりました。開国による貿易では、海外から安価な綿糸が輸入され、当地域の綿作は大きな打撃を受けました。また、地租改正では生産高とはかけ離れた重税に苦しむこととなりました。

「淡河川・山田川疏水」は、その波を乗り切るために先人が知恵や工夫をこらし、そして「水の一滴は血の一滴」との思いを胸に成し遂げた一大成果であり、この地域の近代化に貢献しました。

まず、淡河川疏水事業が1888年(明治21)に着工し、それに続く山田川疏水事業の完成は、1919年(大正8)でした。「淡河川・山田川疏水」は、江戸時代の構想から完成まで約150年をかけて実現した歴史的偉業です。その後も、多くの関係者がこの財産の維持・管理に心をくだき、先人が築いた壮大な施設群を守り、活かし続けてきました。この偉業はさらにスケールの大きな「東播用水事業」に受け継がれ、今もこの地を潤し続けています。

そして今、「淡河川・山田川疏水」の流れや施設群がつくりだした風景は、平成15年には「文化的景観を対象とした調査で重要地域」(文化庁)に選択され、平成18年には「疏水百選」(農林水産省)に選定されるなど新たな視点での評価が高まっています。

また、平成18年の「兵庫県の近代化遺産」(兵庫県教育委員会)では特に重要な物件と評価、平成20年には「近代化産業遺産」(経済産業省)に認定され、施設群の歴史・文化的価値にも光があたり始めてきました。

いなみ野ため池ミュージアム運営協議会  
淡河川・山田川記録誌編集部会 座長 池本廣希



図1 “いなみ野台地”の位置

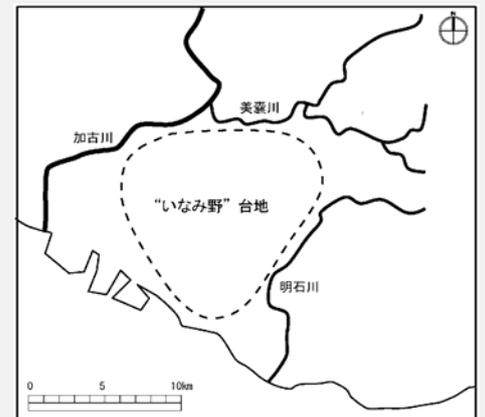


図2 “いなみ野台地”の概略図



写真 “いなみ野台地”

はじめに